

## 第2章 伊豆の国市及び狩野川の現状

### 2-1. 伊豆の国市の概要

#### (1)伊豆の国市の特色

伊豆の国市は、伊豆半島の北部、田方平野のほぼ中央に位置し、市域を南北に流れる狩野川に沿うように国道136号及び伊豆縦貫道が通るとともに、三島駅と修善寺駅を繋ぐ伊豆箱根鉄道も市域を南北に走っています。

このため、静岡県東部の中心都市である沼津市や三島市との交通アクセスに恵まれているとともに、東京からも東海道新幹線、東名高速道路を介して100km圏内にあり、首都圏から2時間弱の所要時間で来訪できます。

伊豆の国市の位置



出典：第2次伊豆の国市総合計画（平成29年3月）

## (2)伊豆の国市の観光資源、歴史・文化資源

伊豆の国市内には、重要な観光資源になっている温泉が豊富にあり、伊豆三古湯の一つで1300年の歴史を持つ「古奈温泉」や明治時代に開湯された「長岡温泉」、「葦山温泉」、「大仁温泉」などには県内外から多くの観光客が訪れています。

過去の時代の面影を残す旧石器時代から江戸時代までの数多くの遺跡や史跡、文化財が点在し、幕末の製砲工場であった「葦山反射炉」は、平成27年7月に「明治日本の産業革命遺産」の構成資産として「世界遺産」に登録されています。

豊かな自然にも恵まれ、市の象徴的な風景となっている「城山」など、原始・古代から残るジオポイントも市内には多く存在します。

### 【葦山反射炉】



- 幕末期（安政4年）に造られた金属を溶かし大砲などを鑄造するための溶解炉
- 実際に稼働した反射炉として国内では唯一現存

出典：伊豆の国市歴史的風致維持向上計画（平成30年3月）

### 【城山】



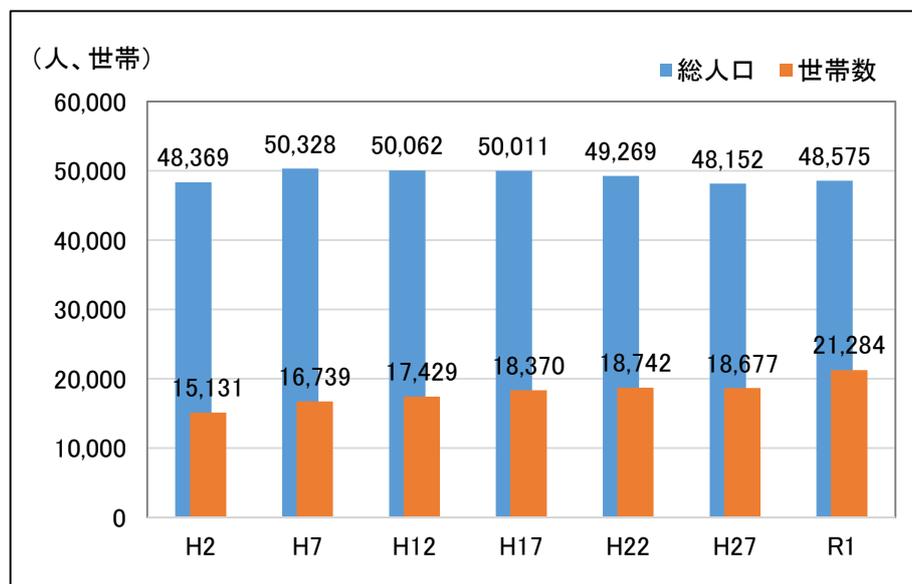
- 伊豆の国市の象徴的風景
- 世界ジオパークに認定された、伊豆半島ジオパークのジオサイト

出典：伊豆の国市歴史的風致維持向上計画（平成30年3月）

## (3)伊豆の国市の人口及び世帯数

伊豆の国市の人口・世帯数は、平成以降では人口が約5万人前後で推移し、世帯数は約1.5万世帯から約2万世帯に増加傾向にあることから、少数家族化が進んでいます。

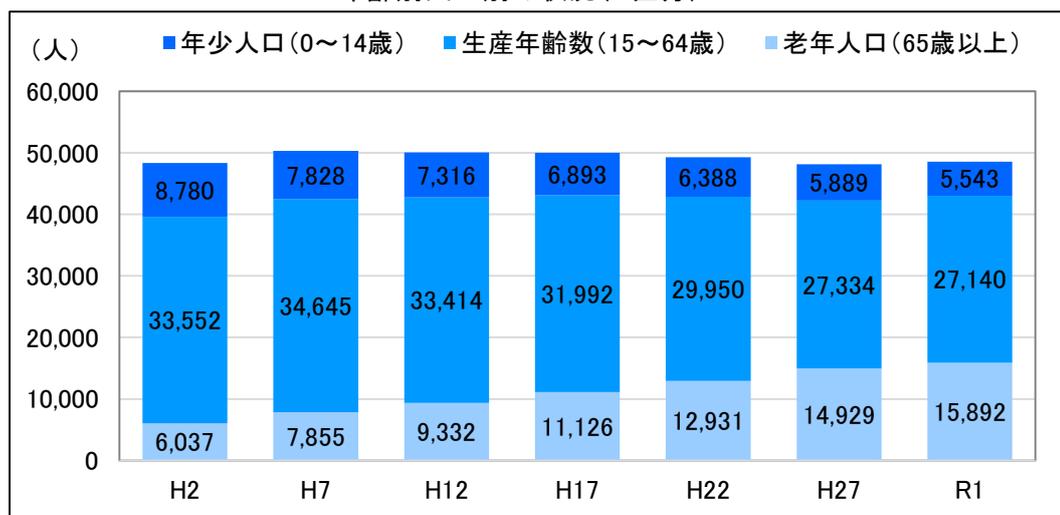
人口・世帯数の推移



出典：総務省「国勢調査」(H2～H27)、伊豆の国市「住民基本台帳」(R1)

人口構成では、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）が減少傾向にあり、逆に老年人口（65歳以上）が増加傾向にある少子高齢化が進行しています。

年齢別人口別の状況(3区分)



出典：総務省「国勢調査」(H2～H27)、伊豆の国市「住民基本台帳」(R1)

## (4)伊豆の国市のかまちづくりに関連する計画

## ①第2次伊豆の国市総合計画(平成29年3月)

「第2次伊豆の国市総合計画」は、平成28年度を最終年度とした第1次総合計画の成果と課題を踏まえつつ、伊豆の国市の将来像と分野別の施策運営の基本方向を明らかにし、行政運営を総合的かつ計画的に進めていくための計画で、令和7年度までの伊豆の国市の総合的なまちづくりの指針となるものです。

本計画の基本構想では、「ほんわり湯の国、美し国、歴史文化薫る国、未来を拓く伊豆の国」(住んでいる人も、訪れる人も、歴史や文化が薫る美しい地で温泉や食を楽しみ、ほっとする(ほんわりする)時間を有意義につくれるまちを目指すとともに、時代の潮流をつかみ各分野で未来を拓くまちを目指す)を将来像に定めています。

かわまちづくりに関連する施策としては、「観光推進体制の強化と交流人口の拡大」、「歴史・文化・芸術を生かしたひとづくり・まちづくりの推進」、「健康長寿を目指すまちづくりの推進」が掲げられています。

## 第2次伊豆の国市総合計画 基本構想

まちづくりの基本方針	施策の大綱
1 豊かな自然に抱かれる伊豆の国市	1-1 自然環境の保全と景観の向上
	1-2 快適な生活環境の創造
2 伊豆の国市にしごとをつくる	2-1 地域を支える人材の就労支援
	2-2 地域特産品の競争力の強化
	2-3 地域産業の活性化と新たな雇用の創出
3 伊豆の国市に新しいひとの流れをつくる	3-1 移住・定住の促進
	3-2 <u>観光推進体制の強化と交流人口の拡大</u>
	3-3 情報発信力の強化とおもてなしの充実
4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市	4-1 <u>歴史・文化・芸術を生かしたひとづくり・まちづくりの推進</u>
	4-2 次代を拓く教育と研究の推進
5 子育ても人生も楽しい伊豆の国市	5-1 結婚・出産の支援
	5-2 子育て環境の充実
	5-3 <u>健康長寿を目指すまちづくりの推進</u>
	5-4 誰もが安心して暮らしていける地域社会の実現
6 安全で安心な伊豆の国市のまちづくり	6-1 災害発生を見越した防災・減災のまちづくりと安全・安心なまちづくりの推進
	6-2 持続可能なまちづくりの推進
7 みんなで創る伊豆の国市	7-1 自助・共助・公助のまちづくりの推進
	7-2 効率的な行政運営の推進

出典：第2次伊豆の国市総合計画(平成29年3月)

## ②伊豆の国市観光基本計画(平成 27 年 3 月)

「伊豆の国市観光基本計画」は、伊豆の国市総合計画のまちづくりの基本方針である『「いきいき働く、活気に満ちた産業のあるまち」を作る(産業・経済・労働)』を、観光分野の施策により実現していく分野別計画として位置付けられています。

本計画では、市民一人ひとりが参加し、「毎日が魅力ある“おもてなしの伊豆の国”」の実現のための取り組みを推進し、その取り組みの推進によって、市民の生きがいや安らぎを生み出し、また、生活のゆとりと潤いに寄与することを目指しています。

かわまちづくりに関連する施策としては、『歴史資源を活かす観光地づくり』の一つとして「ものがたり性のある回遊ルートの創出」、『健康・スポーツによる交流づくり』の一つとして「スポーツツーリズムの推進」が位置づけられています。

## 伊豆の国市観光基本計画 基本方針



出典：伊豆の国市観光基本計画(平成 27 年 3 月)

## 伊豆の国市観光基本計画 基本方針

**(2) 歴史資源を活かす観光地づくり**

伊豆の国市は、歴史の表舞台に現れる北条政子、源頼朝、北条早雲、江川太郎左衛門英龍（坦庵）などの人物と縁ゆかりがある地です。また、韮山反射炉や願成就院の国宝など、時代を代表する史跡や有形・無形の文化財が数多く残っています。

こうした歴史資源は、学術的にも非常に貴重なものであり、その魅力を市民や観光客にわかりやすく伝え、観光資源としてPRしていくことが求められます。このため、観光客のニーズに応じたものがたり性の高い回遊ルートの創出や、歴史を活かすプログラムの充実などを進めていきます。

さらに、韮山反射炉が、「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」の構成資産として世界文化遺産の国内推薦資産に決定したことを受け、周辺における魅力の強化とおもてなし体制を充実します。



＜韮山反射炉＞

**(6) 健康・スポーツによる交流づくり**

伊豆の国市には、地域医療の中核を担う「順天堂大学医学部附属静岡病院」があります。この強みを活かし、“魅力ある温泉健康都市”の実現に向けて、“魅力ある温泉健康都市”の実現に向けて、当該病院と積極的な連携を図ります。また、温泉を活かした健康プログラム体験など、観光と健康が一体となったヘルスツーリズム<sup>1</sup>の取組を推進します。さらに、市内を流れる狩野川流域を走るサイクリングやランニングなど、年間を通じて温暖な気候を活かしたスポーツツーリズム<sup>2</sup>の取組ほか、スポーツイベントの誘致を推進します。



＜狩野川 100kmサイクリング＞

出典：伊豆の国市観光基本計画（平成27年3月）

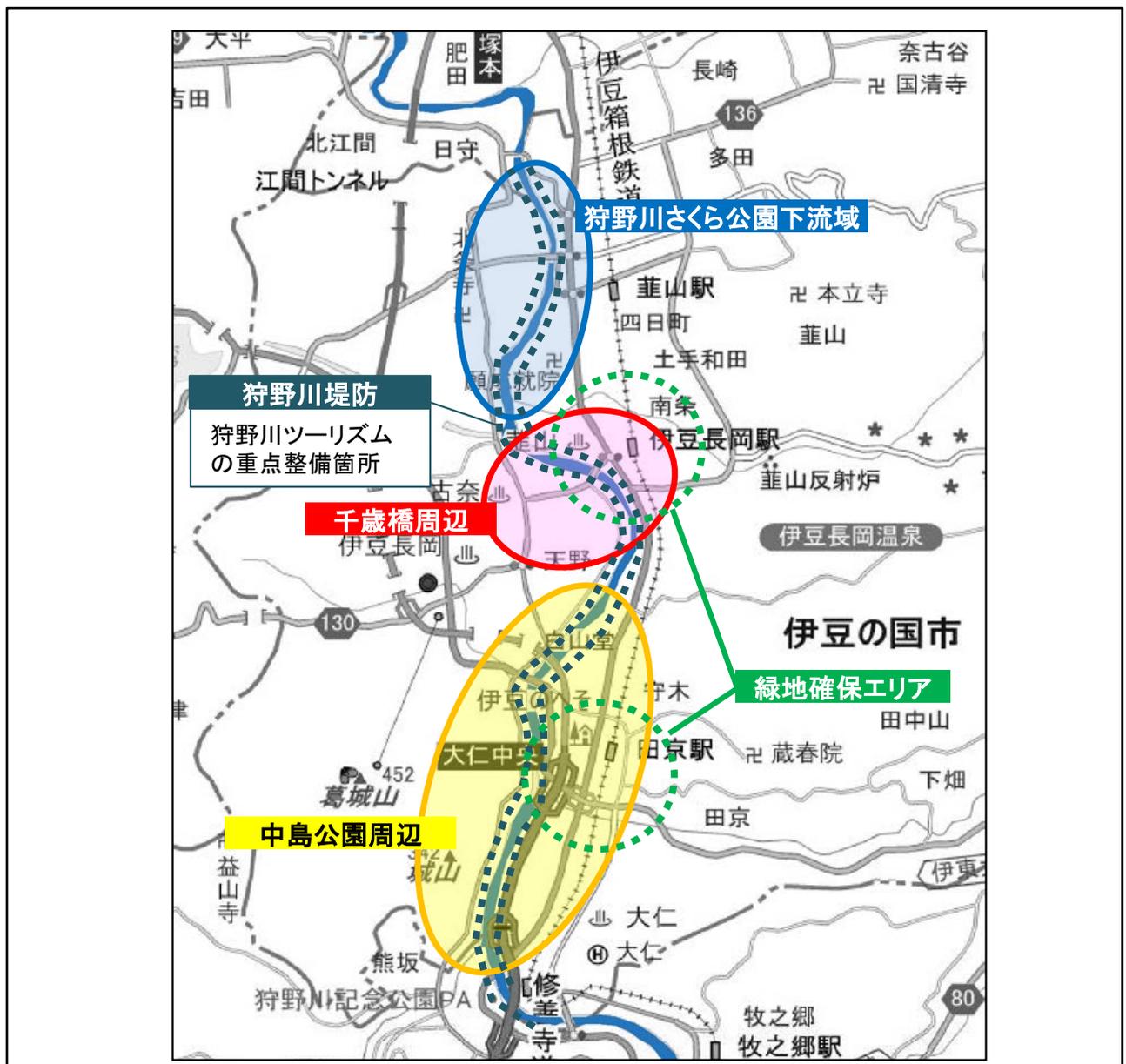
## ③伊豆の国市緑の基本計画(平成 29 年 8 月)

「伊豆の国市緑の基本計画」は、第2次伊豆の国市総合計画が掲げる「ほんわり湯の国、美(うま)し国、歴史文化薫る国、未来を拓く伊豆の国」の将来像を踏まえ、「豊かな自然に抱かれる伊豆の国市」を実現していくために策定しています。

本計画では、「暮らしを彩り、みどりあふれた おもてなし～伊豆の国、水と緑と歴史の京(みやこ)～」を基本理念とし、伊豆の国市内どこでも公園・緑地が身近にある環境を享受できるまちづくりを進めることを方針としています。

かわまちづくりに関連する狩野川周辺の整備・活用としては、狩野川ツーリズムによる狩野川全体の利活用(サイクリングやカヌー等のスポーツと連携することで、狩野川全体の利用を促進)、ゾーンごとの狩野川の利活用の促進(狩野川コリドーや河川敷グラウンドを活かしスポーツ振興を図る「中島公園周辺」)を位置づけています。

伊豆の国市緑の基本計画による狩野川周辺の整備・活用イメージ



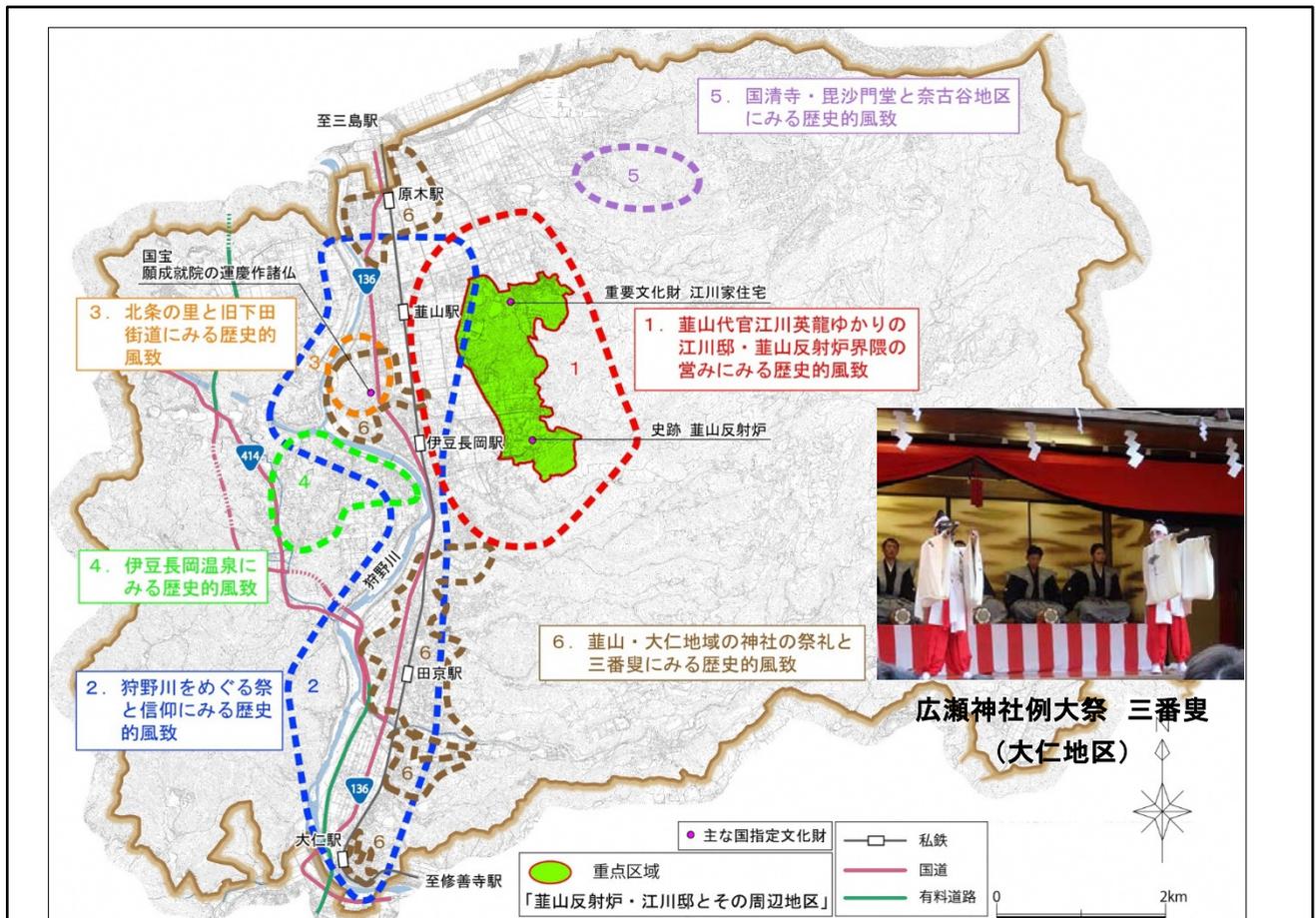
出典：伊豆の国市緑の基本計画(平成29年8月)より作図

## ④伊豆の国市歴史的風致維持向上計画(平成30年3月)

「伊豆の国市歴史的風致維持向上計画」は、市指定無形民族文化財のほか、地域に根ざした祭りの維持・継承が困難となっていることなどの状況に対応するため、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」に基づき、地域に受け継がれてきた人々の営みの継承をはじめ、文化財の周辺環境の整備や歴史的建造物の復原等、歴史的な資産を活用したまちづくりを展開するために策定しています。

本計画では、維持及び向上すべき歴史的風致として6つの歴史的風致を位置付け、狩野川は「狩野川をめぐる祭り」と信仰にみる歴史的風致」に位置付けられています。

## 伊豆の国市が維持及び向上すべき歴史的風致



## ※歴史的風致の維持及び向上に関する方針（狩野川に関する記述）

・歴史文化資源を育んできた周辺の自然環境も適正に保全・修復し、富士の眺望、狩野川や田園風景などの美しい自然環境と一体とした歴史文化拠点都市づくりを推進します。



かわかんじょう(神島地区)



狩野川台風殉難者慰霊碑(南條地区)

## (5)伊豆の国市のまちづくりに関する現状の取り組み

伊豆の国市ではまちづくりの取組として、主として「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催に合わせて市内の温泉や宿泊施設等の資源を活かしたスポーツツーリズムの展開」、「自然資源や歴史的資源と観光資源を結び、周遊性に焦点をあてたまちづくり」に取り組んでいます。

## ①サイクリング&amp;ウォーキングコース

「韮山反射炉」や「江川邸」など伊豆の国市内の歴史文化資源を巡るサイクリング・ウォーキングコースを設定し、歴史文化資源等の周遊利用の魅力を発信しています。

## サイクリング・ウォーキングコース



出典：伊豆の国市観光協会ホームページ

## ②ロードレースチームトレーニングキャンプ

市内にロードレース自転車の展示・試乗施設を運営する自転車メーカー企業と連携し、日本一のロードレースチームのトレーニングキャンプを誘致しています。

## ③レンタサイクル「狩野川ペロ」(観光協会)

伊豆の国市を中心とする狩野川流域を自転車で楽しんでもらうためのレンタサイクル「狩野川ペロ」を伊豆の国市観光協会が展開しており、市内の観光案内所等で自転車（電動アシストサイクル、クロスバイク、子供用マウンテンバイク等）を貸出ししています。



出典：伊豆の国市観光協会ホームページ

## ④狩野川周辺サイクル事業推進協議会

「狩野川周辺サイクル事業推進協議会」は、狩野川周辺の3市1町（伊豆の国市、沼津市、伊豆市、函南町）で設立し、サイクリスト誘客に向けた利活用及び地域振興・発展を推進するため、サイクリングコース設定や講演会等の様々なサイクル関連事業に取り組んでいます。

## 伊豆の国市周辺のサイクリングルート(3市1町を結ぶ全9コースの設定)

	: 伊豆の国・内浦満喫コース
	: 伊豆の国歴史満喫コース
	: 沼津港周辺を満喫するコース
	: 千本松原と駿河湾を満喫するコース
	: 狩野川を満喫するコース
	: 絶景を満喫するコース
	: のどかな風景を満喫するコース
	: 函南のジオ満喫コース
	: 2つの峠を満喫するコース
	: 伊豆の国市内の主な観光地等
	: 伊豆の国市周辺の主な観光地等



出典：KANOGAWA サイクリングMAP, 狩野川周辺サイクル事業推進協議会(平成30年3月)より作成

## 講演会の実施

狩野川周辺サイクル事業推進協議会「サイクル事業講演会」

サイクルツーリズムによるインバウンドの獲得を目指して  
～サイクリスポーツの聖地を目指す静岡県東部・伊豆地域の取り組み～

伊豆半島のサイクリスポーツ推進協議会では、サイクリスポーツの聖地を目指す静岡県東部・伊豆地域において、先進的なサイクリスポーツの取り組みを学び、サイクリツーリズムを推進した観光振興と人口増加につなげるための取組を推進します。また、ゲストサイクリストから静岡県東部・伊豆地域のサイクリングの魅力について聞いてもらいます。

**2019年3月14日 木曜日 18時から20時**  
(受付開始：17時30分から)

会場：フラサヴェルデ3階 コンベンションホール  
(沼津市大字町1-1-4)

参加費：無料 (定員：200人・先着申込順)

事例発表者(登壇者)

GUEST CYCLIST  
安田大サカス 役員 長

(株)ニヤサイクル 藤原 三郎 氏  
(株)東之橋 藤原 正行 氏  
伊豆の国市 藤本 大貴 氏

主催：狩野川周辺サイクル事業推進協議会  
後援：沼津市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、静岡県サイクリスポーツの聖地創造会議  
共催：伊豆国市観光センター、静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会  
協賛：静岡県観光局、静岡県観光、SBSプロモーション  
申込・問合せ：沼津市スポーツ交流推進室 電話：055-934-4843/FAX：055-933-1412

出典：伊豆の国市ホームページ

## (6)伊豆の国市の狩野川周辺の祭りやイベント

伊豆の国市内の狩野川では、地域のイベント「かわかんじょう」や一般参加のイベント「鮎友釣り体験」(静岡ディステーションキャンペーン、伊豆の国ふるさと博覧会)、花火大会、サイクルツアー「ライド&ライド狩野川」(旧狩野川 100km サイクリング)などが開催されています。

### ①かわかんじょう

かわかんじょうは、毎年8月1日の夕刻、神島地区の狩野川で行われている夏の風物詩です。

暴れ川狩野川の水霊を鎮め、水難者の供養や地区の安全を祈願するという、明治以前から続くと言われている地域の伝統行事です。



出典：広報いずのくに（平成24年9月）

### ②ライド&ライド伊豆狩野川

狩野川流域のロコサイクリストをガイドにした伊豆半島独特の自然・風景・みち・資源を楽しむサイクリングツアーを毎年秋に実施しています。伊豆の国市中島地区の河川敷がスタート・ゴール地点となっています。



出典：伊豆の国市緑の基本計画

## (7)かわまちづくり対象地区に隣接する観光・利用資源

## ①道の駅「伊豆のへそ」

道の駅「伊豆のへそ」は、平成30年11月にリニューアルし、特産品である「いちご」のスイーツ専門店、地元野菜や果物などの静岡・伊豆の特産物直売所、世界的自転車ブランドの展示・試乗施設などが集合した伊豆の観光・集客拠点になっています。



和洋スイーツいちごの専門店

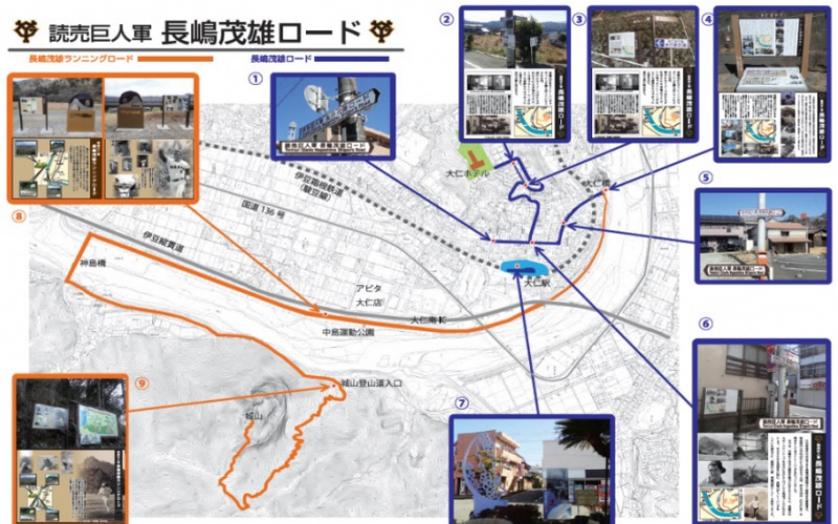


世界的自転車ブランドの展示・試乗施設

出典：道の駅伊豆のへそホームページ

## ②読売巨人軍長嶋茂雄ロード

長嶋茂雄読売巨人軍終身名誉監督が伊豆の国市（旧大仁町）を自主トレーニングの拠点としたことから、長嶋氏がトレーニングをしていた道などが「読売巨人軍長嶋茂雄ロード」と命名されており、河川堤防はその「読売巨人軍長嶋茂雄ランニングロード」に位置づけられています。



出典：伊豆の国市ホームページ

## 2-2. 狩野川の概要

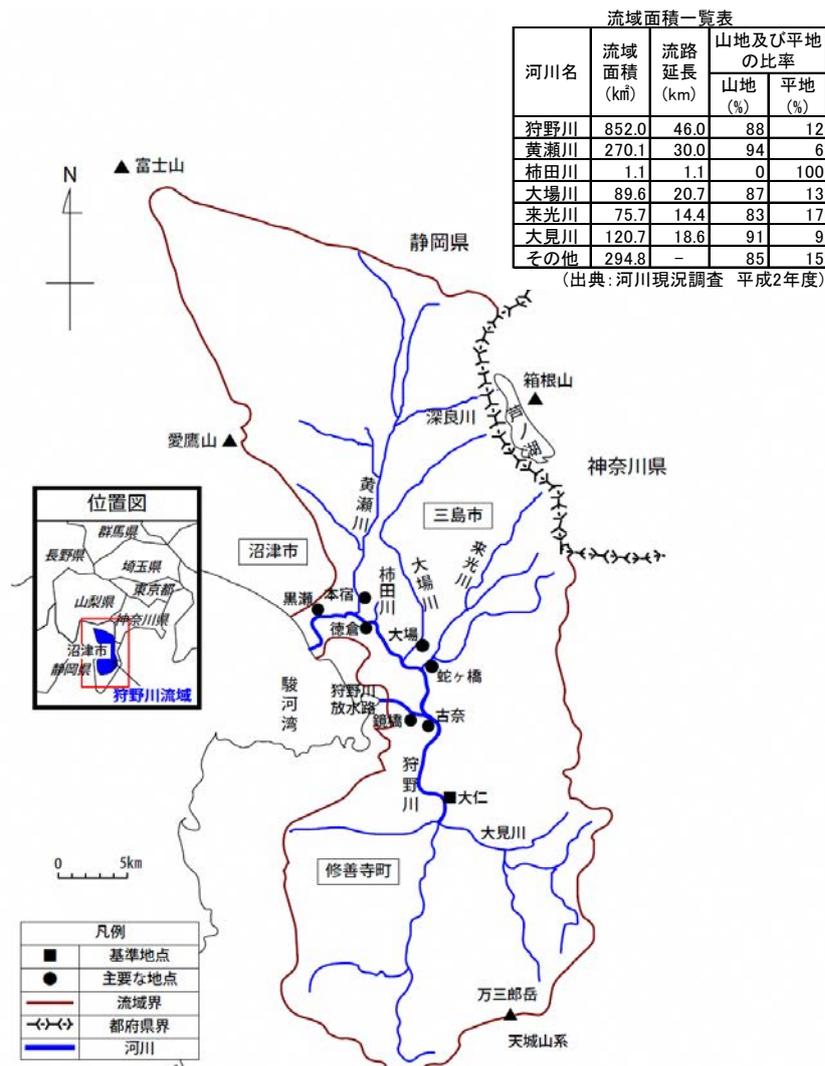
### (1) 狩野川の概要

狩野川は、伊豆半島中央部の静岡県伊豆市の天城山系にその源を発し、大小の支川を合わせながら北流、田方平野に出て伊豆の国市瀬之上で狩野川放水路を分派した後、箱根山等を源とする来光川、大場川等を合わせ、さらに、沼津市で富士山麓より南下する最大の支川黄瀬川を合流し、そこから西へ転じ、駿河湾に注ぐ幹川流路延長 46 km、流域面積 852 km<sup>2</sup> の一級河川です。

流域は南北に細長い「く」の字の形をなし、富士箱根伊豆国立公園に囲まれ豊かな自然環境を有する観光地を擁するとともに、東西交通の要衝として基幹交通網が集中するほか、下流域の沼津市、三島市は湧水にも恵まれ、県東部・駿豆地区の中核都市として地域の産業・経済・文化等の基盤をなしています。

伊豆市にある修善寺橋から河口までの約 25km 区間の狩野川本川と、狩野川放水路及び柿田川の全区間、黄瀬川、大場川、来光川、柿沢川の各下流一部区間を国土交通省が管理し、それ以外の指定区間を県が管理しています。

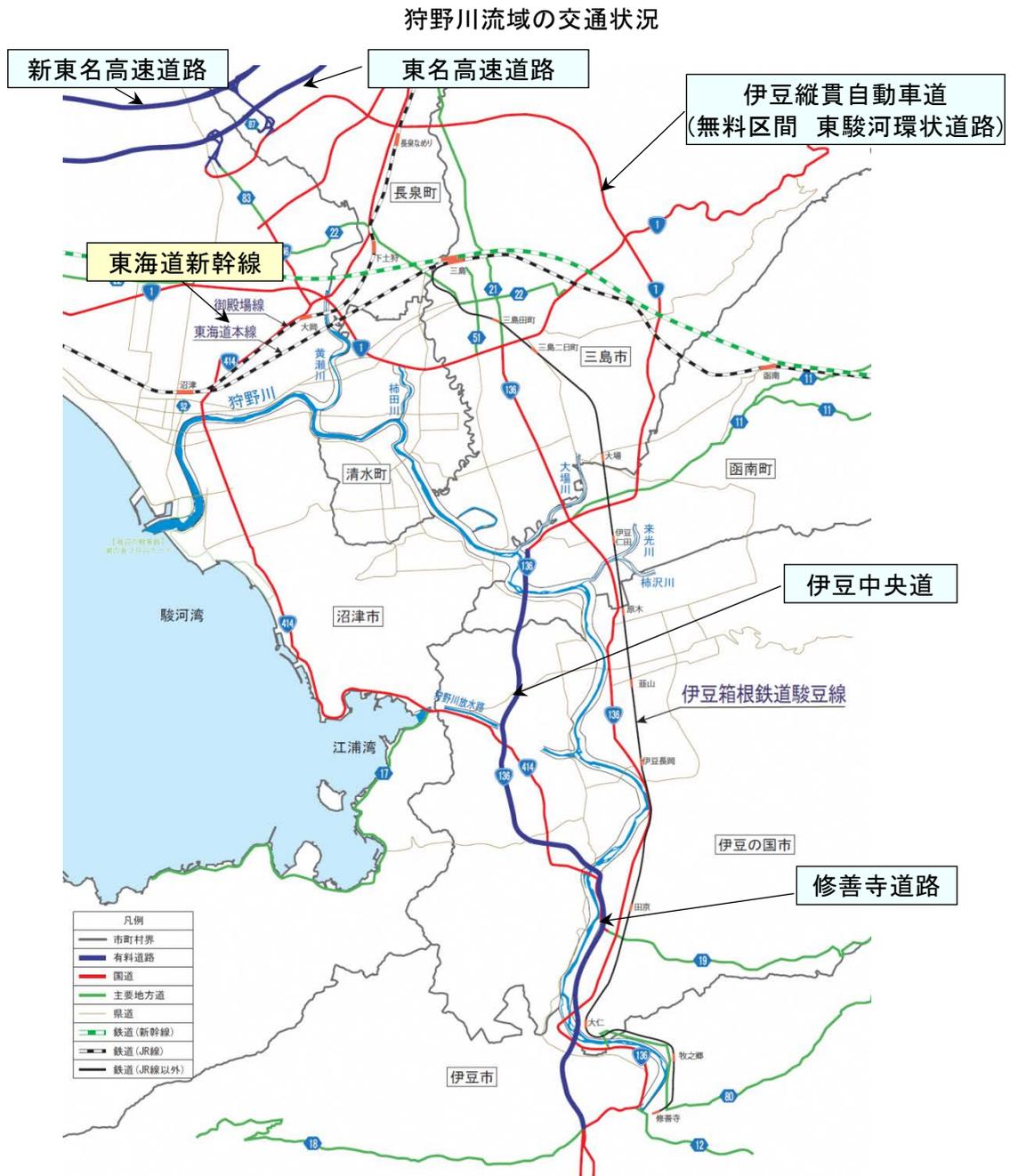
狩野川水系図



出典：国交省・河川整備基本方針「狩野川水系流域及び河川の概要」

## (2)狩野川流域の地勢と交通

狩野川流域は、東海道本線や東海道新幹線、国道1号等の太平洋ベルト地帯の基幹をなす交通網が集中しているほか、東名高速道路の開通に加えて、平成24年には新東名高速道路、平成31年1月26日には伊豆縦貫自動車道天城北道路及び国道136号「下船原バイパス」が開通しています。また、伊豆縦貫自動車道に加えて、伊豆中央道、修善寺道路の整備が進んでいます。これにより、広域からのアクセス性が向上し、国内有数の観光地である伊豆半島への交通の拠点としての位置づけがより強くなっています。



### (3)狩野川流域の地域資源の状況

#### ①上流域:伊豆市～伊豆の国市

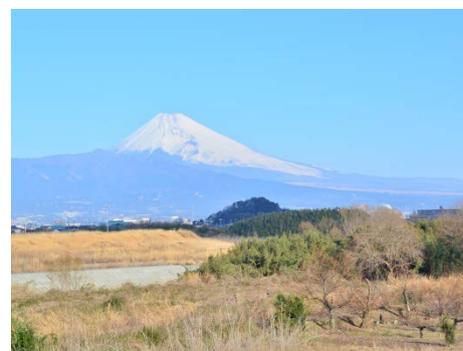
狩野川の上流部は、滑沢溪谷等の溪流景観をはじめとした自然景観に恵まれているとともに、浄蓮の滝や萬城の滝など、随所に点在する滝が変化に富む景観を形成しています。また、溪流沿いに天城湯ヶ島温泉、修善寺温泉等の温泉地が点在しており、“いで湯”と“清流”の組み合わせが良好な景観を形成しています。井上靖や川端康成をはじめとする多くの作家がこの地を訪れ、狩野川や流域の描写が描かれた優れた作品を残していることから、彼らの名や作品にちなんだ文学碑などが多く見られます。



(浄蓮の滝)

#### ②中流域:伊豆の国市～沼津市・函南町

中流部は、瀬淵が交互に現れて緩やかに流れる川面と富士山や天城山系などの山々や、田方平野の水田が調和した田園的な狩野川特有の落ち着いた景観を形成しています。特に、大仁橋から狩野川上流の天城山系を望む景観は伊豆八景の一つに選定されています。歴史の舞台であり源頼朝が配流された蛭ヶ小島や、北条氏にまつわる史跡なども残されています。加えて、富士山眺望ポイントが多数点在し、山や滝、湧水等に関わるポイントが伊豆半島ジオパーク（ジオポイント）に指定されています。また、中流部には、イチゴ狩り農園が存在するとともに、河川内ではカヌーフェスティバル、ランニング、サイクリング等のイベントも多く行われています。



(富士山の展望)

#### ③下流域:函南町～沼津市・三島市・清水町

下流部は、静浦山地や都市区域に残された緑地と富士山や伊豆半島の眺望と市街地が融合した水と緑豊かな都市景観を形成しており、富士山を遠景として都市部をゆったりと流れる狩野川の景観が特徴的となっています。また、沼津市上土地区では、市街地再開発事業と一体となって整備された階段護岸等が、都市域における良好な水辺空間を提供しており、花火大会等のイベントが定期的に行われています。



(右岸階段堤 水辺のステージ)

(4)狩野川中流域の主な地域資源の分布

狩野川中流域の主な地域資源の分布状況



## (5) 狩野川河川空間の利用状況

平成 26 年度に狩野川の国管理区間で実施した「河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）」によると、狩野川の水面や高水敷等の利用者数は、約 121 万人と推定され、多くの人が狩野川の河川空間を利用していることが分かります。

中流部から上流部は、鮎の友釣りの発祥地であり、初夏には多くの釣り人でにぎわっています。また、高水敷が整備されている下流部では、花火大会や鯉のぼりフェスティバルなど様々なイベントが行われ、住民の身近な活動空間として利用されています。

利用形態別の状況は、散策等が 8 割を超えており、利用者の大半を占めていますが、鮎の友釣りが盛んになる夏から秋にかけては、「釣り」の利用者の割合が増加しています。利用場所別の状況は、堤防が 57%、高水敷が 37%と、両者で全体の 9 割を超えています。

狩野川の年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値（千人）		利用状況の割合	
		平成21年度	平成26年度	平成21年度	平成26年度
利用形態別	スポーツ	168	109		
	釣り	64	36		
	水遊び	32	44		
	散策等	900	1,026		
	合計	1,164	1,214		
利用場所別	水面	37	50.2		
	水際	65	29.1		
	高水敷	506	448.6		
	堤防	506	686.6		
	合計	1,114	1,214		



(散策の様子・上流部)



(鮎釣りの様子・上流部)



(花火大会の様子・下流部)

## (6)利用者ニーズ

「伊豆の国市かわまちづくり」の策定にあたり、狩野川に対する意識や意見を参考とするために、狩野川流域沿川住民にアンケート調査を行った結果を以下に整理します。

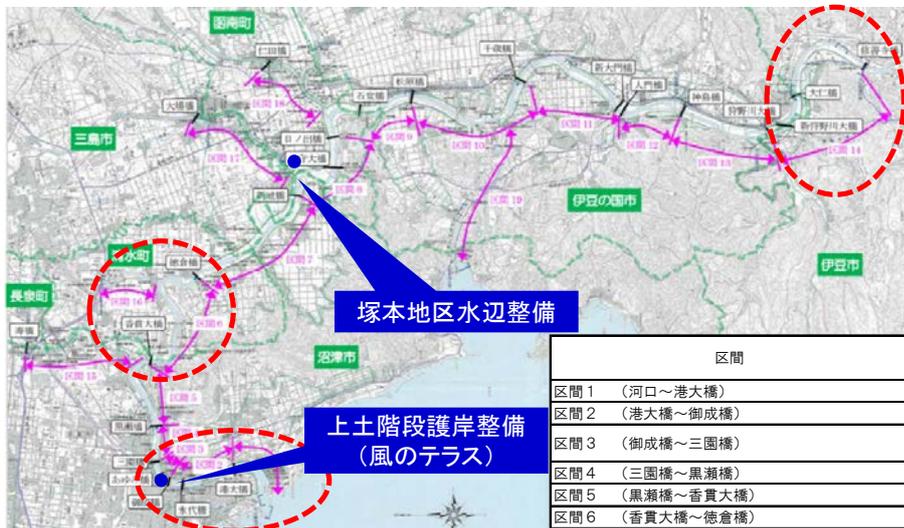
## アンケート概要

- ・調査対象：沿川住民（沼津市、清水町、長泉町、三島市、函南町、伊豆の国市、伊豆市）
- ・調査手法：WEB 調査 モニター会員対象
- ・回収票：417 票 ※人口動態等を踏まえて配布

## アンケート調査結果①

- ・狩野川への来訪は、下流域の風のテラス整備箇所周辺（区間1～区間3）への来訪が最も多いです。その他、柿田川公園等が整備されている柿田川周辺（区間16）への来訪や、上流域の狩野川記念公園の整備されている狩野川大橋～修善寺橋（区間14）への来訪も多いです。
- ・一方、主な利用施設のない日の出橋～松原橋（区間9）周辺や、道の駅伊豆のへそが整備されているが河川へアクセスしづらい神島橋周辺（区間12～13）では来訪が少ないです。
- ・下流域の沼津市上土地区、中流域の函南町塚本地区では、『都市・地域再生等利用区域』の指定を受け、地域の意見やニーズを活かした河川空間のオープン化が進められています。来訪の少ない箇所（特に、未整備の神島橋周辺）においても、今後整備を進めることで利用者が増加する可能性があります。

## 狩野川の来訪箇所に関する調査結果



区間	よく来訪箇所(複数回答)		主な利用施設
	回答数(票)	割合(%)	
区間1 (河口～港大橋)	53	15.3	我入道の渡し船、沼津港、不動岩
区間2 (港大橋～御成橋)	63	18.2	沼津セントラルパーク
区間3 (御成橋～三園橋)	76	21.9	かのがわ風のテラス、沼津セントラルパーク、狩野川緑地
区間4 (三園橋～黒瀬橋)	47	13.5	
区間5 (黒瀬橋～香貫大橋)	42	12.1	堰下公園
区間6 (香貫大橋～徳倉橋)	52	15.0	本城山公園
区間7 (徳倉橋～新城橋)	39	11.2	狩野川ふれあい広場、長伏公園
区間8 (新城橋～日の出橋)	19	5.5	肥田簡易グラウンド、日守山公園、道の駅・川の駅ゲートウェイ函南
区間9 (日の出橋～松原橋)	16	4.6	
区間10 (松原橋～千歳橋)	24	6.9	
区間11 (千歳橋～大門橋)	30	8.6	狩野川リバーサイドパーク
区間12 (大門橋～神島橋)	22	6.3	道の駅伊豆のへそ
区間13 (神島橋～狩野川大橋)	25	7.2	中島運動公園
区間14 (狩野川大橋～修善寺橋)	50	14.4	狩野川記念公園、瓜生野ふれあい広場
区間15 (黄瀬川 合流点～寿橋)	26	7.5	
区間16 (柿田川 全川)	53	15.3	柿田川公園、柿田川駐車場
区間17 (大場川 合流点～大場橋)	33	9.5	道の駅・川の駅ゲートウェイ函南、間宮川向公園
区間18 (束光川・柿沢川 合流点～仁田橋)	20	5.8	仁田さくら公園
区間19 (狩野川放水路 全川)	22	6.3	狩野川資料館
その他	7	2.0	

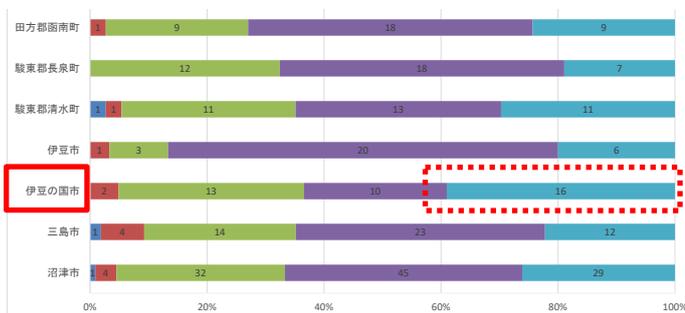
アンケート調査結果②

- ・狩野川について、自然を近くに感じる評価、景観の良さに関する評価、散策・サイクリングの使用のしやすさに関する評価は、良い評価が多くなっています。一方、施設の充実に関する評価や水辺の親しみやすさに関する評価は低くなっています。
- ・伊豆の国市の住民は、景観もよく、自然を近くに感じ、天端は使いやすく良く利用するが、公園・グラウンド等施設が少なく、水辺利用も少なく、評価が低くなっているものと考えられます。
- ・このため、上流域の伊豆の国市でかわまちづくり支援制度を活用し、広い公共空間を活用した親水拠点を生み出せば、利用される可能性があります。

狩野川の満足度に関する調査結果

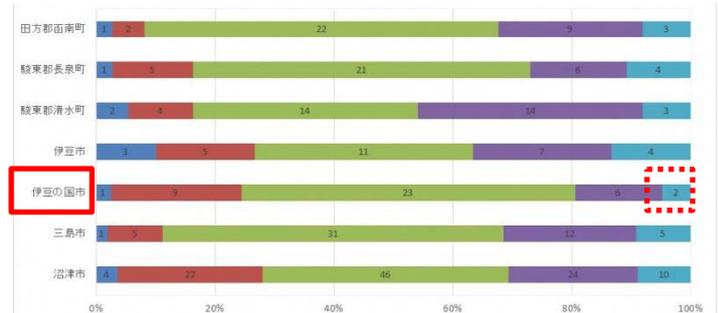
■悪い ■どちらかと言えば、悪い ■どちらとも言えない ■どちらかと言えば、良い ■良い

景観の良さに関する評価



景観は他市町に比べて、良い評価

公園・グラウンド等の施設の充実に関する評価



公園・グラウンド等の施設の充実は他市町に比べて低い評価

自然を近くに感じる評価



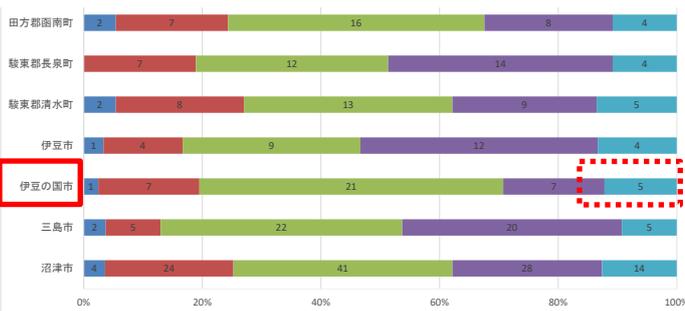
他市町に比べて、自然を感じやすい評価

川沿いの散策・サイクリングの使用のしやすさに関する評価



天端の散策・サイクリングの使いやすいは他市町に比べて高い評価

水辺の親しみやすさに関する評価



水辺の親しみやすさは他市町に比べて低い評価